



# 有明高専だより

第106号  
2002.3

生きることは  
死ぬ日まで  
自分の可能性を  
諦めず  
自分の才能を  
日々の仕事に  
努力してみよう  
ことを

卒業生 審理会  
「生きるには、アリ。

平成十四年三月  
山野 誠



特集 校長インタビュー	2
シリーズ 研究室訪問	4
シリーズ 人物 いま	5
特集 卒業をひかえて	6
第33回定期演奏会	8
冬季球技大会	10
ラグビー大会	10
シリーズ クラブ紹介	11

## 目次

留学生送別会	12
寮送別会	12
岱明寮だより	13
英語検定・漢字検定合格者	14
新学生会	15
クラブリーダー研修	15
建築設計競技	16
編集後記	16

※本文中に於いて、学生氏名の前にある英数字は、所属クラスを表します。

数字は学年、英字は学科（M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科）です。

## 山藤校長先生にインタビュー

退官を前にされた山藤校長先生に、学生会長の坂本政徳君(4E)と文化局長の山下麻凡さん(4A)がインタビューしました。校長先生の青春時代、お仕事、高専生へのアドバイスなどといへん有意義なお話を聞くことができ、二人とも最初に思っていた以上の収穫を得たようでした。



山藤校長先生

坂本 有明高専に来られた何年になられますか?

校長 今年の3月で満5年になります。

山下 有明高専に来られたときの印象はどうでしたか?

校長 学校を最初に訪ねたときの印象は

「辺鄙なところにあるな」というものでした。でも、私の連れ合いの両親は以前荒尾市の校長官舎の近くに住んでいたこともあり、私もときどき里帰りに付き合っていましたので、なんだか故郷に帰って来たような気もして、「ここに勤めるようになって良かったなあ。」と感じたものでした。

学生については、ここに来る前に付き合っていたのは大学生や大学院生でしたから、特に一年生なんかは、「かわいい」という感じでした。私には娘が二人いますが、彼らが高校生の頃には、女性の友達が主でしたが、ときには男性の友達も混じって、グループで家に遊びに来て一緒におしゃべりなどしていましたので、その年齢の人達と付き合うのにもあまり抵抗がなく、一緒にやっていけると思っていました。

坂本 着任された頃の学生と今の学生を比べて変わったと思われるところはありますか?

校長 私はここに来る前に九大に35年間勤めていましたので、よく「今の学生と昔の学生はどこが違いますか?」と尋ねられたものでした。そのときは、「見かけとか、表現の仕方などは時代によって変わるけれども、仲良くなつて本音を言い合えるようになってみると、つまり一皮剥けば、今も昔も変わらないように思います。」と答えていました。高専生の場合も、同じではないでしょうか。

山下 校長先生の20歳くらいのときはどうでしたか?

校長 私は5年制の旧制中学が廃止される前の年に入学したので、高専の1年生の気持ちがよく分かります。入学したときに5年生なんかは大人のように見える怖ろしい存在でした。そして、最後の入学生だったのでその後4年間ずっと最下級生で、昔のことですから、上級生から殴られたり説教されたりしていました。一番威張るのは2年生か3年生で上級生の威儀を笠に着て威張るのです。私は、そういう連中は許せないと今でも思っています。暴力を振るわないと言うことを聞かせられないような人達は最低ですよね。

そういう時代でしたから、高校生まではいがく坊主で、20歳になってから髪の毛を伸ばし始めました。



つまり、髪の毛が半分伸びたふわふわ頭のかわいい(?)大学2年生でした。想像できますか? 勉強は人並みによくしましたが、「ガリ勉」と言われるのが嫌で、みんなと一緒にクラブ活動をしたり、遊んだりした後、勉強していました。好きな人はいましたが、昔のことですから今みたいに1対1でデートする勇気はなく、グループで山登りをしたりしていました。山登りは今でも好きですが、その頃のお小遣いのほとんどは山登りにつき込んでいたように記憶しています。

坂本 有明高専の校長をされていて一番嬉しかったこと、良かったことは何ですか?

校長 最初の始業式のときに、校長あいさつが終わつた途端に大きな拍手がきたのはとても嬉しかった記憶があります。実は、大学に勤めていたときには、学生にあいさつをして拍手をもらったことはなかったのです。講演のときは別ですよ。九大工学部の紹介をしたときに、出席していた高校生や保護者の方、高校の先生から拍手をいただいた経験はありますか…。そこで、教務主事の田口先生に、「高専では校長のあいさつのときに拍手をするのですか?」とお訊きしたところ、「私が知る限り、今回が初めてです。」ということでした。残念ながら、拍手をもらったのは、それ一回切りでしたけど。

良かったことは、やはり、専攻科がスタートしたこと、教室などの増・改築を一通り進める予算をいただいたこと、地域共同テクノセンターも今年度内にスタートすること、それに、先生方や学生の皆さんのが私に朗らかにあいさつしてくれるようになってきたのも嬉しかったことの一つです。

山下 逆に一番残念だったことは何ですか?

校長 やはり、学生の中にときどき、社会のルールを守らない人達がいたことです。教育の場ですから、これが一番残念です。これくらいはまあよいだろう…という安易な気持ちが往々にして重大な事件を引き起こすことを十分考えてほしいと思います。また、自殺したり、交通事故などで、若くして亡くなり、これから長い人生におけるあらゆる可能性を捨ててしまう結果になった人達がいたのも、心が痛みます。

坂本 一番印象に残った高専の行事を教えて下さい。

校長 体育祭は非常に記憶に残っています。他の高専に比べても、あんなに立派に体育祭を運営して、あのような応援合戦をしているところはないと思います。



山下麻凡さん(4A)

伝統的な良い行事で、強く印象に残っています。ただ、指導が行きすぎないことをお願いしたいですね。

山下 校長としての仕事は日頃はどんなことをされているのですか？

校長 皆さんは全校集会でいさつしたり、机の前に座ってしかめつららしい顔で印鑑を押したり、教職員の皆さんの相談にのったりしている姿を思い浮かべられるかも知れませんが、それは校長の仕事のほんの一画面にしかすぎません。私は、校長は、たとえば綱引きの競技における「旗振り」の役目をするようなものだと思っています。綱引き競技の相手は社会の要請や批判です。有明高専はそれらに負けないように立派な教育研究を行う必要がありますが、それを実際に行うのは先生方や職員、それに学生の皆さんであって、校長ではありません。綱を引く皆さんが息を切らせてているのにやたら早く旗を振っても、皆さんは付いて来ることができず、実力を発揮できません。逆に、こちらの皆さんだけを見て、それに合わせてゆっくり旗を振つてみると、綱引きの相手である社会の要請や批判に負けてしまいます。相手をよく見ることができるのは、立ち上がって旗を振っている校長だけですから、有明高専の皆さんの実力が十分発揮できるかどうかは、校長の旗の振り方もかかっているという意味で、校長は重要な職務なのです。私は、この5年間は、幸いにも、皆さんと校長の息がぴったり合つたのではないかと感じています。そういう意味で、この5年間は、私にとってはとても楽しい5年間でした。

坂本 やり残されたことはありますか？

校長 細かいことを言えば、いろいろありますが、私が赴任する前に「これだけは在任中に皆さんと一緒に仕上げたい」と思ったことは、ほとんどすべて仕終わったように思っています。前にも述べたように、実際に実行するのは校長以外の皆さんですから、皆さんに心から感謝しています。

山下 21世紀の高専の夢を伺わせてください。

校長 夢を言わせていただくならば、九州にも1校くらいは技術大学院大学ができ、高専はみんな3年間の予科課程をもつ技術大学になる…ということになります。実践的技術者を目指す人達を教育するシステムの最高峰が、東大や九大と同じように大学院大学であることは、そういう人達に夢を与えると思うからです。現在、国立大学も国立高専も独立行政法人化されることが決まっており、そうなると、競争原理が今よりも強烈に働くことになります。高専も、そういう競争に耐えるために、取りあえずは専科大学化しようという動きがあります。また、国際技術士の1次試験免除課程である、いわゆるJABEEプログラムを持つことも、競争に負けないための最低条件の一つです。これらは、夢と言うよりも、今後数年間における最低重要課題といえます。

坂本 高専生に望むことは何ですか？

校長 一つだけと言われば、それは、「やる気」をもった人に育てほしいことです。先生方も、学生の「やる気」を引き出すように、寝るのも忘れて夢中になつて取り組んでしまうような面白い宿題をどんどん工夫

して出してほしいな…と思ひます。

もう一つだけ付け加えるとすれば、人はみな他人と接触しながら生きて行くわけですから、相手の立場に立つて物事を考え行動し、相手から好意を持たれるようになってほしいと思います。そうすれば、自分も気持ちよく生きてゆけるからです。たとえば、パーティー等で座っている人に話しかけるときには、自分の目が相手の目線と同じかそれより低くなるようにかがんで、話しかける…といった、ちょっとした心遣いがエチケットとして、気障りなく、自然にできるような人になってほしいと思います。自分が傍に寄つて来たのに座つてるのは怪しからん…というのは、こちらの立場の考え方で、相手にしてみると、自分を見下ろしながら話しかけるのは失礼だ…と感じるかもしれないからです。

要するに、相手の立場に立つて考えて行動するというちょっとしたエチケットを身につけて、相手から好意を持たれるかどうかで、うまくいかないこともうまくいくようになる…ということを常に考えておいてほしいのです。

坂本 最後に社会人になるための心構えを教えて下さい。

校長 目の前の仕事を全力を挙げて取り組むことです。「自分の能力からみてやさしそうだ」と思つて手を抜いて次の仕事をすると人はあなたの能力が見えません。見えるのは行った結果だけです。そうするとこんなやさしい仕事をこの程度しかできないのかと評価します。あの人の能力はしれてるなり、重要な仕事がまかせられなくなるわけです。難しいことはわかりませんが、やさしいことに対してはだれでも批評できます。木下篠吉郎が草履とりの仕事をしているとき、草履を懷に入れて信長に差し出した話は有名ですよね。草履とりは揃えるだけだから暇だとは思わないで、草履とりで最善の仕事は何だろうと考えて行動したんですね。そういうことでだんだん認められて重要な仕事を任されるようになるんですね。常に手を抜かず最善を尽くすことをしておけば後悔しないと思います。

坂本・山下 本日はお忙しいところへんありがとうございました。



坂本政徳君 (4E)

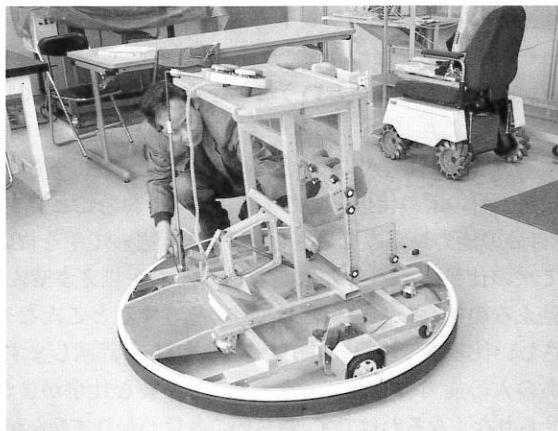


地域から要請を受けて障害児が自由に動き回れるための装置を次々開発されている機械工学科の川崎先生と木下技官にお会いして、お話を聞きました。

—これが最新の装置ですね。

これは重度の障害児の移動を助けるために、立位保持器をのせて自走できる装置です。

既存の立位保持器は、自分の脚で起立できない障害児の機能回復訓練を行うために、体をベルトで固定しながら立たせるためのものです。それ自体はクッションの配置などとても工夫されているのですが、あまり使われていませんでした。というのもそれだけでは自分で動くことまではできないから退屈で、そのうえ姿勢を保持するために縛り付けられているから、立っているだけで苦痛でした。そこで、楽しくて機能回復訓練ができるように自走機能を持たせました。



—この装置の特長を紹介してください。

子どもの遊び心を刺激すること、機器の自立性、汎用性を目指して開発していて、細かい工夫がいっぱいです。

まず、大きなボタンで操作できます。その場で方向を変えられるように旋回もできます。形も四角だと角で引っ掛かる可能性があるので、バランスも考えて円形にしています。また構造においても、安全安心のために重心をきちんとと考えています。

あと、バンパの適度な強さを工夫しました。ぶつかったときに気づかないような柔らかいものではなく、適度に衝撃を受けるようになっています。これは養護学校からの、機能回復訓練のために衝突の経験をさせたいという要望に沿ったものです。

汎用性を確保するために、立位保持器を固定させるフレームを井形に組んでおり、取り付けも自由な位置に、しかもワンタッチでできるようになってます。例えば、福岡養護学校には立位保持器は7種類ありますが、それら全てに対応できるように考えました。

—使ってみた子供たちの反応はいかがでしたか。

実際やってみないと分からぬですね。使う前は緊張していて体が堅くなっている子が、乗せてみると折り曲げた足を動かしてみたりして、向こうの先生も驚かれていました。子どもたちは五感で感じるんですね。モータの音やギアの音にもとても喜びます。



—こういった一連の装置の開発はいつごろから取り組まれてきたのですか？

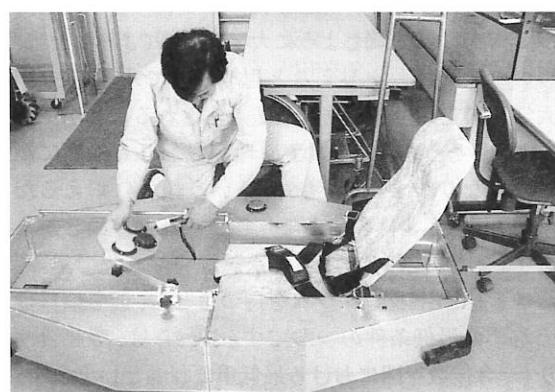
4年前に、福岡養護学校にボランティアとして出入りしていた卒業生を通じ、養護学校に通う児童のお母さんから相談されたのがきっかけです。ロボコンをしている高専というイメージから何かできるのではないかと思われたようです。

—どのように役割分担しているのですか？

木下さんが中心になって進められています。私(川崎)は対外的なことをしたり、こんなのがいいとか言っているだけですね。木下さんは福祉機器の開発をライフワークとして取り組まれており、関連の学会にも入っておられるんですよ。

—どんなことが大変ですか。

学生と一緒に作業ができる場所があまりないことです。できれば地域の人も交えて学生と一緒に話し合ったり、物を製作したりする場所があるといいですね。



—今後のご予定について教えて下さい。

次回作は秘密です。子どもたちが喜んでくれるこれまでの決定版を考案中で、自分でもわくわくしています(笑)。

永年勤続20年の方々にインタビューをしました。



一般教育科 中本 潔 先生

○20年間の一番の想い出

熊本県下の高校に30年勤めた後、11年前に赴任しましたので、まだ20年にはなりませんが、一番の想い出は、普通高校の生徒と同じ年頃の学生なのに、と一種のカルチャーショックを感じたことです。

○以前と変わったこと

自由な雰囲気の中でも、自分で規律を求めて、しっかりと勉強の成果を發揮する学生を見て、授業での接し方が変わったと思います。一生勉強だし若い頃自分の勉強法を確立できるかどうかが一番だと思うからです。

○モットー

「不羈奔放」が理想ですが、生来の小心者ゆえつらいです。少なくともあまり迷惑をかけないで生きていければと思っています。

○学生諸氏に一言

ないものねだりをせずに、高専の素晴らしい自覚してもらいたいです。長く思える時間を大切にして学生生活を充実させて下さい。そして、あと少し行儀よく。



機械工学科 吉田 正道 先生

○20年間の一番の想い出

都城で行われたロボコン九州大会からの帰途、人吉付近の高速道路上で先代のスクールバスのクラッシャーが燃えて、40名の参加者全員が夕闇迫る中、バスを放棄せざるを得ない状況になり、当日中に大牟田へ帰れないかもしれないという危機に陥ったときのこと。

○20年前と今について

- ・自分の仕事机に座る時間が激減してしまった。
- ・良くも悪くも以前は学校全体におおらかさが満ち満ちていた。
- ・施設面での教育環境は格段に良くなつた。

○20年で自分が変わったところ

髪が白くなった以外は、ほとんど精神的に変わってないことを日々情けなく感じるようになったところ。

○モットー

日々感謝。

○学生に一言

哲学なき人生は船のない船のようなもの。自分の人生に哲学を持ってほしいと思います。(私自身に言い聞かせていることです。)



情報処理センター 前川久美子 さん

セピア色の写真の向こうに、学校に採用されたころを思い出します。今の情報処理センターの事務室は、まだ電子計算機室のパンチ室と呼ばれており、計算機はやたらと大きい鉄の固まりでした。当時はカードにパンチ穿孔して計算機にかけるというJOB形態で、エラーがなくなるまでパンチして戦っていたように思います。昼休みと放課後は学生の皆さんで熱氣あふれる電算室でした。今は一人一台のパソコンを使い放題で、インターネットで世界を飛び回る時代となりました。情報処理センターが一番時代を感じるところなのかも知れません。

この度は永年勤続の表彰を受け、心から喜んでおります。これもひとえに温かく見守っていただいた山下センター長はじめ皆様方のおかげであると感謝の気持ちでいっぱいです。また、この20年間、家族も健康で平穏に過ごせたことに幸せを感じています。これを一つの節目として、また、心新たにスタートしたいと考えています。今後も有明高専での充実した日々を、健康で大過なく過ごせるよう努力していきたいと思っています。



庶務課 中川 雪枝 さん

電気工学科、機械工学科、建築学科の学科事務から、会計課、学生課を経て現在庶務課2年目です。たかだか20年、されど20年。

いつも周りの皆さんに励ましにささえられてここまで続けることができました。

学科にいたころは学生さん達との関わりが多くいろいろな話をして気持ちも近いところにあったような気がします。卒業生の方々との再会も楽しみでした。

開校20周年のとき、記念歌の作曲をしてそれが入賞したのがうれしい想い出のひとつです。

高校生の子を持つ今、保護者の立場がよくわかるようになりました。

これからも、本校ある限り本校と共にがんばっていきたいと思っています。

## 卒業をひかえて 平成14年2月8日

出席学生：梶原 理宏君（5M） 原口 典子さん（5C）  
 福山 祐佳さん（5E） 鬼丸 恵介君（5A）  
 武末 彰君（5I） 司会：C科 渡辺 徹 教官



司会 皆さん、期末試験も終わり、卒業研究等で大変忙しい中、各学科を代表して出席していただきありがとうございます。『卒業をひかえて』というテーマで5年間の高専生活を振り返って印象に残ったことなど中心に話していただきたいと思います。

まず、学生会長と寮長と一人二役をこなされた梶原君からどうぞ。



梶原 理宏君（5M）

**梶原** 学生会長の方から言うと、学生会長は学生と先生の橋渡し役という感じで、僕らの意見や要望を先生方に伝えて話し合いをし、逆にこういうことをやってほしいという要望とかを一般の学生に伝えていかなくてはいけないので、一種の伝

達ということの難しさを感じました。寮では、1年生については指導寮生が指導します。それ以外のとくに1年生から2年生に上がったばかりの2年生が、羽目を外したりむちゃくちゃなことをしたりしたときに、僕らが注意しますが、收拾がつかないときもあるし、寮務主事室の先生方が注意されますが、それでもなかなか聞かないことがあります。そこでやはり年齢が若い学生たちが、4年間いろいろ経験したことをもとに、先生方とは違う指導を行って、それをわかつてくれたことも多かったです。こんな感じで寮長としての仕事をしてきました。

司会 福山さんは1～5年間弓道部に所属していましたね。クラブ活動における体験談や特に印象に残っている対外試合などありましたら聞かせて下さい。

福山 私は弓道部で、特に好成績を残したという思い出はありません。でも地元の小さな大会で、1度優勝することができました。弓道というのは集中力が求められるスポーツなので程良く緊張しておかなければいけません。4年生のときは緊張して震えがきたことがあったので、5年生ではしっかりしようと思い、そして、何とかその結果が出せたので良かったと思いました。

司会 原口さんは4年次に、開校以来初めての海外研修旅行を経験しましたね。そのときの体験談などを聞かせて下さい。

原口 はじめての海外研修だったのですけどやっぱり一番苦労したのが英語でした。行く前はできるかなという不安があったのですけど、実際行ってみると周りがみんな英語を話してて、自分が英語を話さないとご飯も食べれないし、どこにも行けないという状態な

ので、身振り、手振りとかで一生懸命やつたりしてなんとか乗り切りました。あと、シンガポールというのは工業的にすごい発展をしたところで工場とかもすごく大きくて広くて、ビルとかも日本と違うすごさがあることに圧倒されました。

司会 ブラスバンド部の活動で印象に残っていることはありませんか。

原口 先日の1月26日に定期演奏会があったのですが、5年間続けてきた最後の定期演奏会というのはいろいろな意味で、すごく思い出深かったです。演奏会が終わって出てこられた全然知らないお客様にもすごく喜んでもらい、「ありがとう」という言葉をもらつたそのとき、5年間やってきて本当に良かったなと思いました。

司会 鬼丸君は4年生のとき高専祭実行委員をされました。体育祭が2年続いた後の高専祭でしたが、準備などどうでしたか。

鬼丸 3年のときに体育祭実行委員をしたとき、自分は設営という長をやったんですけど、そのとき失敗したのは、自分の思っていることを他の実行委員の人たちにうまく伝えることができなかつたことです。4年のときは、それをうまく伝えるように紙に書いてみんなに渡すことを心がけました。自分は最上級生ではなかつたのですが、作業とかするときにはあまり動き回らない、本部にいて指示を出している方がうまくいくということが分かってきたので、それで一生懸命やつてみんなをまとめました。高専祭のときはうまくいつてうれしかったです。

司会 テニス部でも5年間活動されましたか、特に印象に残ったことなどありませんか。

鬼丸 5年生で僕がキャプテンのときに久しぶりに九州大会で優勝ができました。

九州大会優勝を目指してきたのですけど全国大会でも準優勝でき、それも印象的でした。それ以上に、朝早くから夜遅くまで、本当に一日中みんなで練習したことは忘れないと思います。

司会 ところで、去年は、4月から9月まで機械工学科、物質工学科で改修工事が行われましたが、工事中、工事後の学科の様子はどうでしたか。

梶原 9月に機械棟が完成して初めて機械棟の中に入つて感じたことが2つあります。ひとつは、1年から5



鬼丸 恵介君（5A）

年まで過ごした機械棟と比べて、広い空間が保てており、機械との間に少し余裕があること、もう一つは、一人一人がこじんまりとした環境で実験を行うのではなく広々としたスペースで実験を行えるので、作業する側に立っても作業をしやすい雰囲気を持っていることです。

司会 原口さんは、生物棟でしたが、工事中、工事後なにか感じたことはありませんか。



原口 典子さん(5C)

原口 工事中私はほとんど生物棟にいたので、そのときはあまり感じることはなかったのですが、改修が終わって教室に入つてみたら木を使ってたりしてすごく暖かい雰囲気になつてゐるなということを感じました。

司会 卒業後の進路について聞きたいのですが。武末君は高専ではめずらしいと思うのですが、財務省に就職されますね。そこを選んだ動機は何ですか。またいつ頃からそのための準備を始めたのですか。

武末 就職のことに関しては4年生のときから考えていました。自分の性格は安定志向で公務員になりたいということをずっと思っていたのです。準備は試験前の大体1ヶ月半前から問題集を買つ込んで毎日受験の対策をしました。難しいということでダメならしくはないという開き直りできたのですけど、結果的にうまくいったと思います。そのころが高専に入つてから一番緊張したのではないかと思います。

司会 鬼丸君、福山さん、卒業後の進路のそれぞれ福岡空港ビルディング、富士通サポートアンドサービスについて何かありませんか。

鬼丸 公共の施設、人が集まるような建物やそういう場所の雰囲気が好きなので、そういうところに就職したいと思っていたのですが、そのとき、福岡空港で働くという求人があったので運が良かったと思います。



福山 祐佳さん(5E)

福山 勢いがあって周りがみんな一生懸命仕事をしている会社を希望していました。ずっと同じ物を作つたりするだけの仕事でなくて、できればいろいろ考えたり、動いたりできるところに入りましたので、勧められた会社の資料を読んで、

これがいいなと感じ、受験しました。

司会 原口さんは熊大理学部、梶原君は島根大学に編入学されますね。抱負を聞かせて下さい。

原口 何でも一生懸命やってみることです。大学ってどんなところで、何をしたらいいのか、分からぬ部分が多いので、とりあえず一生懸命やってみれば、なんとかなるだろうし、後悔も少ないと思います。

梶原 大学は勉強していくのも大切だけれども、それ以上に行きたいという意志がなくてはいけないと思います。いくら頭が良くても大学の先生方は面接のとき、それを見抜いていると思いました。そこで、ぼくは大学でものづくりについて学びたいと思っているという気持ちを忘れないように大学に行ってずっとそのことについて勉強していかなければと思っています。

司会 最後に後輩へのアドバイスなどつけ加えることがありますたらどうぞ。武末君はどうですか。

武末 最初高専に入ったとき、部活しようと思ったのですけど、何もできなくて、1年生の間は学校に来たらすぐ帰る生活でした。2年生から3年生のとき学生会の仕事をするようになってから楽しくなりました。そういうことが就職の面接のときにアピールできたことが、後になって良かったなと思いました。

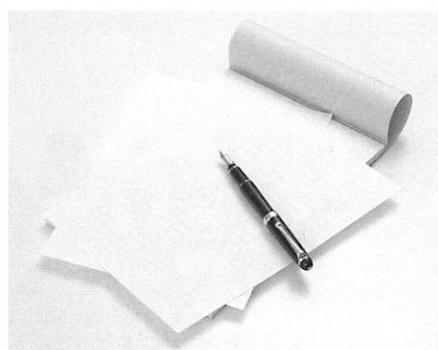


武末 彰君(5I)

福山 下級生のときに上級生のすることを見て自分だったらこうするのにとか頭の中でシミュレーションすることがあると思いますが、自分が仕切る立場になると、頭の中で考えた通りになかなかできるものではないと気付きます。実際にやってみると分からぬことがたくさんあるので、責任者などになる機会があれば、ぜひ進んでなつてもらえたならと思います。

梶原 まず、クラスでまとまって盛り上がり、次に伝統として受け継いで行かなくてはならない高専祭、体育祭や寮祭などを他の高専や地域住民からうらやましがられるほど盛り上げ、さらに次のステップへというふうに、学校をだんだんと盛り上げていくことが、とても大切なことだと思います。

司会 本日は、有意義な話をいろいろ聞かせてもらいました。卒業研究の発表まで後わずかです。頑張って下さい。また、卒業後の皆さんの活躍を期待しつつ、本日の会を終わりたいと思います。ありがとうございました。





# 第33回定期演奏会

## 第33回 有明高専吹奏楽部

「定期演奏会を終えて」

今回僕は33回目となる定期演奏会の実行委員長をすることになり、1月26日という日のために実行委員のみんなと一年間企画を立ててきました。どんな演奏会にしようかな、という希望を持ちスタートした春から、夏、秋、と過ぎて行くにしたがって不安が日増しに大きくなっていました。演奏会前日、心の中で「やれるだけのことはやった…。明日は絶対うまくいく…。」と、つもった不安を押し殺すかのように自分に言い聞かせながら、気持ちをたかぶらせていました。そして本番の日をむかえ、準備で一息つく暇もなく演奏会の開演を迎えました。1部、2部とステ



# 定期演奏会

## 音楽部定期演奏会

ーージを終えることに一年間積み上げてきたものが成就されていくのを感じました。そして終演し、今まで張りつめていたすべての思いが解け、今度は感謝の気持ちがこみ上げてきました。今までお世話になった5年生、一年間ついてきてくれた実行委員のみんな、そして最高の演奏をしてくれた部員とそれを支えてくれたすべての人々。この日のために働いていたマイナスのイメージがプラスに変わった瞬間でした。部員の笑い、泣く顔を見て、第33回の定期演奏会の成功を確信しました。このメンバーで作った最初で最後の演奏会を僕は忘れません。

第33回定期演奏会 実行委員長 西山 友二 (3I)



# 冬季球技大会

平成13年11月29日(木)

	優 勝	準 優 勝	M V P
バ レ ー	機械工学科5年	機械工学科4年	機械工学科5年 甲斐 隆嗣
男子バスケット	電気工学科4年	建築学科5年	電気工学科4年 宮本 武昭
女子バレー	物質工学科1年	建築学科3年	物質工学科1年 青柳 摩耶
卓 球	機械工学科5年	物質工学科5年	機械工学科5年 森下 真奈

最優秀クラス(総合優勝)

機械工学科5年

優 秀 クラス

機械工学科4年



# 九州地区ラグビー高専大会

## ノーサイド

5 A 古川 秀一

私達ラグビーチーム30名は全国大会出場を目指し、この一年間練習してきました。ラグビーに対する考え方から変え、基礎トレーニングから応用トレーニングまで、皆で話し合い新しいトレーニング方法を入れて、厳しい中にも楽しさのある練習を頑張ってきました。

11月17日、天気は良く風が強い日でした。結果は去年と同じ惜敗でした。

抽選があり対戦相手が決まったときから、今思うと正直、選手一人一人の気持ちの中に油断があったと思います。実力的に私達が負ける相手ではなかったからです。油断や焦りなどのいろいろなプレッシャーを感じました。自分達のプレーができない…。時間が経つにつれ、油断が不安へ変わり、時間のプレッシャーもありました。ノーサイドの笛。悔しさで泣

く選手ばかりでした。私は敗北のショックで泣くことすらできず、2・3週間その現実を受け止めることができませんでした。今でも思い出すたび、悔しさやつらさが甦ります。

有終の美を飾ることはできませんでしたが、今回の大会を犠牲にしても得たものは大きかったです。

そして、一年間一人も辞めることなくついてくれた後輩たち、ありがとうございました。応援して下さった方々本当にありがとうございました。





## 野球部

4E 寺田 拓真

現在、野球部はプレシーズン真っ只中で、基礎体力の強化・筋力アップに取り組んでいる。夏であれば、大会に向け毎週毎週の試合などで話題も豊富なのだが、とりわけこの時期はあまりボールやバットにさわらず、ひたすらトレーニングに励む毎日である。

トレーニングメニューを考える上で難しいのが、チームとしてどれくらいハードなメニューをこなしていくかだ。部員へのアンケートを行ったところ、「なぜ、部活をしているのか」という質問に対しては77%の部員が「野球が好きだから」と答えた。ある程度、予想どおりの答えだろう。問題は、個人がどこに目標をおいているかである。高専大会で優勝を目指してという者もいれば、楽しくやれればという者もいる。前者なら目的達成のため、きつい練習にも耐えられるだろうが、後者にとってはボールにさわることの少ない冬練は、野球からほど遠いものでおもしろい練習とは言えないのだ。40名強の部員の考えを尊重しながら、かつチームとして統一しシーズンに向けてまとめ上げるのが主将としての真価が問われると考える。

今年は、高専大会優勝という目標を早期から掲げ、それ相応のチームを作れるメドも立ってきた。

半年後の高専だよりには、“硬式野球部全国大会優勝”という文字を見ることができるよう、部員一同邁進していくつもりなので応援よろしくお願いします♥



## 写真部

4A 諏訪園 美帆

こんにちは、写真部です。私が入部して以来、部員が3人しかいなかつた年もありました。しかし、現在は、2年生が6人、3年生が5人、4年生が2人の計13人で活動しています。私達4年生にとって、初めての後輩で、うまくまとめることができず、迷惑ばかりかけている気がします。でも、だからこそ、活動内容を皆で話し合い、それぞれの都合のいい日を選んで撮影に行く日を決めたりと、いい意味で先輩後輩という区別がないところが、写真部のいいところだとも思っています。広い視野に映るいろいろな世界の中から、カメラのレンズに収めたい世界を選び、その被写体を、どう撮るか。写真は、それぞれの個性が出るもので。一つの被写体でも、上下左右から、正面から斜めから…と人それぞれの写し方があるからおもしろいのです。私達はそれらのフィルムを暗室でネガにして、それから印画紙に焼き上げます。現像液に印画紙をつけると、少しづつ、像が出てくるときがおもしろいし、何より白黒の写真を自分で現像できるようになるということが一番の魅力です。興味を持った人は、火曜日の放課後、気軽に訪ねて来て下さい。今まで見ていたものでも、カメラのレンズを通すと違ったように見えてくるものですよ。今まで気づかなかった、新しい自分の感性を見つけることができます。

13人の部員と、顧問の山下先生で、これからも協力して、大家族のような楽しい部にしていきたいです。

## \*留学生送別会\*

留学生送別会が2月13日(水)に修己館で行われました。山藤校長先生のあいさつのあと、在校留学生代表のジェイ君(4E)が送別の言葉を述べ、引き続き卒業予定の4名の方々、ナグイブ君(M)、ハレム君(E)、ラハト君(I)、シャルミンさん(A)より卒業のスピーチをいただきました。日本に来て暑さ寒さがこたえたこと、また、初めのうちは言葉のことで苦労したことなど、お礼の言葉も含めて真心のこもったスピーチをいただきました。また4年電気工学科の今村君のチューター代表あいさつ、建築学科上原先生の指導教官あいさつ、プラスバンドの演奏などがあり、約1時間があつという間に過ぎてしまいました。

教務主事補 永守 知見



## \*寮送別会\*

岱明寮では、卒寮を祝って去る2月9日(土)に恒例の送別行事が行われた。本年度の卒寮生は留学生や編入生も含めて16名である。前の晩から、寮母さんや女子寮生が準備していた餅米が銀杏棟補食室で蒸し上がるころ、卒寮生が杵を片手に岱明寮伝統の石臼の周りに集まってくる。じきに、餅つきが始まり、下級生も手伝って、あつという間に真っ白なもちがつきあがった。早速つきたての餅をぜんざいや黄な粉餅にして、皆で食べた。文句なくうまい!



夕方からは、多数の教職員の方々を招待して、寮食堂で予餉会が行われた。校長先生のあいさつに始まり、1年生の余興などがあつて、大いに盛り上がった後、寮長の送辞、旧寮長の答辭になった。こみ上げるものがあったのであるか、答辭の声が途切れる。卒寮には純粋な感傷が伴う。なぜかしらすがすがしい。この後、卒寮生に記念品が贈られ、万歳三唱で前途を祝福して予餉会の幕を閉じた。

寮務主事 吉田 正道

*Once upon a time  
in 岱明寮...*

ニューヘッド  
**新頭誕生**

～新寮長の紹介～

**熱闘球技**

～冬季寮生球技大会～



電気工学科 4年  
**今村 英樹**

こんにちは!今度、ヘッド(寮長)になりました4Eの今村英樹です。伝統ある岱明寮の寮長になることができ嬉しく思うとともに、これから的一年間、自分が本当に寮を引っ張っていくかという不安も多少あります。しかし、自分にできることは精一杯頑張っていきますので、岱明寮をこれからもよろしくお願いします。

さて、「能ある鷹は爪を隠す」という言葉は聞いたことがあると思います。本当に実力のある人は、真に必要のある場合しか、それを示さないという意味ですが、最近は必要なときも面倒だからといって隠したままの人が多くなっているのではないかでしょうか。最後までその実力を出さないままなら、実力がないのと同じでしょう。しかし、その持った実力を周りに示す人が増えれば、より高いレベルのものを共有できるのではないかと思います。その原点として、岱明寮が一人一人の能力を発揮できる場として機能できればすばらしいと思います。それにより、学校にも同じような影響を与えることができるなら有明高専はすごい学校になるのではという野望も生まれます。

自分はこの一年で寮生のさまざまな能力を発見して寮のレベルアップに努めたいと思います。

すごいよ、岱明寮!!

去る1月19日(土)、岱明寮恒例、冬の球技大会が華々しく開催された。当日は昨年とうって変わって、冬晴れの好天に恵まれ、男子はサッカー、女子はビーチボールバレーに熱戦が繰り広げられた。春の新入生歓迎球技大会は出身地別チームだが、冬は棟別対抗であり、各棟の名誉をかけていやがおうにも闘志が燃えあがる。ホグワーツ魔法学校のクィディッチ大会をも凌ぐかと思われるほどだ。さすがに空は飛ばないが、寮生諸君はグラウンドやコート上で、青春を爆発させていた。午後の日差しが傾くころ、寮生会のてぎわよい運営もあって、すべての競技は無事終了し、第一体育館前で、優勝チームと最優秀選手に豪華賞品が贈られ、主事の講評があつて閉会式も終わった。萩尾坂を談笑しながら下る生徒諸君の顔は、穏やかな冬の日に照らされ、今日一日の充足感を物語るように明るく輝いていた。



**寮生会役員**

平成13年11月21日現在

寮長 4E 今村 英樹  
副寮長 3C 本宮 竜介  
副寮長 4A 山下 麻凡  
総務書記 4M 足立 崇  
涉外 4E 矢山 高裕

局名 局長 副局長 棟長・指導寮生等

会計 3C	本宮 竜介	2E	刈屋 浩司	銀杏棟長 5I 小林 達矢
風紀 4E	八田 敬太	3M	小堀 聖	紅葉棟長 3I 田中 健太
整美 4I	長淵 徹	3E	吉田 達紀	青葉棟長 2E 松川 博
体育 4E	江口 嘉伸	2C	金子 劇太	若葉棟長 4C 玉越 充洋
厚生 3M	磯野 将文	2I	阿波 卓弥	桜棟長 4A 山下 麻凡 (副棟長)
報道 4E	山本 邦博	1I	松永 刚幸	桜副棟長 4A 黒木 佳奈 3E 橋本 知栄
写真 3E	山崎 進一	2E	石橋 拓郎	指導寮生 4C 安部 和臣 4E 江口 嘉伸
照明 2E	井手 秀一	2M	三浦 俊亮	4C 玉越 充洋 4E 矢山 高裕
娛樂 4M	中山 史朗			

※男子棟棟長・指導寮生は14年3月まで

# 英検・工業英検・漢検合格者

平成12年度のカリキュラム改訂により、現2年生から、文部科学大臣認定の技能審査による学修が授業外単位として認定されることになりました。

平成13年度 第2回

## 実用英語能力検定

2級	2C 嘉悦 彩
準2級	1C 柿原 真実 2A 花田山佳里 2I 江崎 恵 2I 古賀 昭徳 2I 佐藤 輝明 2A 清輔 夏輝 2I 藤井 恵太 2C 山下 祐司 2E 北田 高博 2E 横尾 勇助 2A 横尾 有美 3M 松尾 真也 3M 吉川 耕平 3E 德満 拓郎 3E 藤田 隆治 3C 那須 文美 3A 前濱 久美
3級	1M 緒方 祐二 1I 石橋 純美 1I 大藪 佳代 1C 阿津坂 隆 1C 執行 百恵 1C 平本 優

平成13年度 第2回

## 工業英語能力検定

3級	2C 石橋 龍太 2C 菅尾 祐輔 3M 成清 隼人
4級	1M 相浦 一博 1M 池部 圭 1M 井上 敬介 1M 上原 亮 1M 梶村 康文 1M 北原 裕揮 1M 古賀 丈士 1M 薦田 祐 1M 小森 圭 1M 郷原 正博 1M 坂口 大和 1M 高田 祐子 1M 田中 栄作 1M 塚本 光二 1M 津留真一郎 1M 時津 尚弘 1M 富松 大樹 1M 中島 徹 1M 中島 優作 1M 松崎 智統 1M 松田 章宏 1M 松原浩太朗 1M 森 翔太朗 1M 秋富 裕紀 1E 足立 憲亮 1E 池上 勇人 1E 伊津野大志 1E 岩 亜紀征 1E 上野真太郎 1E 江崎 圭佑 1E 黒田 朋義 1E 古賀裕太郎 1E 越岡 俊介 1E 酒井 陽兵 1E 坂田 真愛 1E 德永 龍哉 1E 豊福 大騎 1E 中川原佳樹 1E 中野 匠章 1E 長野 友彦 1E 野田 大道 1E 肥後 智也 1E 平田 憲章 1E 廣田 信介 1E 福田堅志郎 1E 福山 翔 1E 古川 智広 1E 増尾誠一朗 1E 村野 達哉 1E 山口 雅史 1E 山田 将大 1E 秋吉絵梨香 1I 池島 直貴 1I 井上 徹也 1I 浦邊 章 1I 遠藤 優介 1I 大久保智聰 1I 大曲 新矢 1I 越智亜祐美 1I 上仮屋 徹 1I 亀丸 翼 1I 川崎 誠 1I 川原 智史 1I 清島真理子 1I 栗林 稔明 1I 堀 研一郎 1I 境 健司 1I 猿渡 一樹 1I 田島 寛之 1I 田中あゆみ 1I 鶴岡 智紘 1I 中ノ森 亮 1I 西 俊哉 1I 林 志穂 1I 原口 修平 1I 福吉 泰樹 1I 古川 明子 1I 桜崎 優子 1I 松永 剛幸 1I 森 裕生 1I 山下 聖正 1I 山下 幸 1I 山村 太士 1I 龍 裕滋 1C 青木 啓悟 1C 安達 好 1C 今村 洋輔 1C 遠藤 久美 1C 大城我夢路 1C 小川 翔大 1C 北野麻里子 1C 木下 佳美 1C 木村 文香 1C 國崎華奈子 1C 塩崎秀二郎 1C 進藤 友紀 1C 津村陽之介 1C 鳥巣 友希 1C 中島 梨江 1C 中村 仁美 1C 永松 碧 1C 成清 可奈 1C 西尾 和範 1C 東原さゆり 1C 樋口 晋士 1C 平岡 己枝 1C 藤田 明広 1C 堀 浩士 1C 宮下 加奈 1C 宮辺 純 1C 森田那央子 1C 山崎 知恵 1C 湯川明希奈 1C 芳村 彩香 1A 青山 晃士 1A 有吉 利礼 1A 石塚 嘉人 1A 有働未奈子 1A 江崎 匠志 1A 江崎 千春 1A 小川太一朗 1A 小田 景子 1A 是木誠一郎 1A 坂本 麻美 1A 重田真由美 1A 柴田 尚平 1A 高木 祥平 1A 田中 陸義 1A 堤 喜恵 1A 東房 翼 1A 中島 宏典 1A 中原 美紀 1A 野口 裕子 1A 宮崎 一喜 1A 柳瀬 永介 1A 吉間 暢之 1A 吉丸亜紗美 2M 井口 裕介 2M 深田 智仁 2M 安谷 泰亮 2M 田中 茂廣 2M 永田 晃士 2M 板橋 沙愛 2M 國崎 崇史 2M 藤木 晃輔 2M 中島 正寛 2E 北園 優希 2E 澪下 博 2E 田中さやか 2E 富安 辰弥 2E 宮田 退時 2I 中川 裕史 2I 野崎 綾 2I 長塚 由紀 2I 野田 薫 2I 岡田あづさ 2I 菱刈 優子 2I 堀 貴尚 2I 松岡 優作 2C 白石 紗子 2C 松本 有希 2C 太田 洋介 2C 古賀 裕子 2C 伊藤 真弓 2A 城戸 幸美 2A 渋田 泉帆 2A 溝上 敦子 2A 小嶺 一聖 2A 中尾 麻美 2A 馬場 晶夫 2A 山下 瞳 3M 井手口弘樹 3M 大喜 正治 3M 木村 匠 3M 久保田諭司 3M 林崎 雅哉 4E 藤岡 諒

平成13年度 第2回

## 日本漢字能力検定

2級	2 上原 倫紀 2A 東 優子
準2級	1I 山口美菜子 1I 西 俊哉 1C 遠藤 久美 1C 鳥巣 友希 1C 中島 梨江 1A 田中 絵理 2M 井口 裕介 2I 野崎 綾 2I 菅原美和子 2C 山下 祐司 2I 古賀 綾子 3M 木村 匠 3M 田嶋 大輔 3I 四ヶ所 萌 3I 中山 順博 3C 石橋リエ子 3C 伊藤 幸 3C 黒田 英里 3C 進藤なつみ 3C 橋本 佳奈
3級	1I 熊川小百合 1I 林 志穂 1C 進藤 友紀 1A 岩永 千春 1A 堤 喜恵 2C 境 舞 2E 田中さやか

# 新学生会

## 新学生会長あいさつ

4E 坂本 政徳

こんにちは、新学生会長の坂本です。現在、すでに学生会は新しいメンバーでの活動をスタートしています。今年は例年以上に役員が集まり、その大半を低学年が占めています。

それは仕事が大変になるかも知れないことですが、この一年でゆっくり着実に仕事を覚えてもらい先につながればと思っています。そして今回目標とするものは“創る学生会！”としまして、何かと新しいものを始めたいと思っています。その原案企画や他の九州高専からの提案の実現など、出てきたものにはできるだけ実現に向けがんばりたいと思います。これから的学生会のため、学校のために何かを残したい。その一心でこの一年がんばりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



## 体育系 クラブリーダー研修

2月8日(金)、改修が終了した本校視聴覚室において標記研修会が開かれました。各クラブの指導的立場にある学生31名が出席、26名の顧問教官も参加されました。高校時代よりラグビー選手として活躍され、その後指導者・公認レフリーアシスタントとして活躍されている本校ラグビー部技術コーチの南義弘先生を講師に迎え、「求められるリーダーとは」について研修を行いました。現役選手時代や本校技術コーチとして経験した多くの事例に基づいて、リーダーとしての心構え、果たすべき役割等について講演されました。これから高専大会に向けてクラブを引っ張っていく学生にとって非常に有意義な研修となりました。

## 平成14年度 学生会役員名簿

会長 4E 坂本 政徳

副会長 3E 吉開 利通

書記

会計 4E 吉谷 友輔 2A 山口 佳  
1E 福田堅志郎

涉外 4I 長淵 徹 3C 平野 陽子  
2C 喜多 綾香 1C 中島 梨江

体育局 4A 江島 大輔 2I 宮田 俊介  
2M 三浦 俊亮 1C 成清 可奈

報道局 3A 熊谷 亮 4E 吉野 琢也  
3E 今村 洋文 2C 平尾 元  
2C 杉野 洋子 2C 境 舞

整美局 3I 田中 健太 2M 鶴田 弘之  
2M 安谷 泰亮

文化局 4A 山下 麻凡 4C 西 彰敏  
3C 平 有加里 2C 堤 奈緒子  
2C 野田 麻衣 1M 高田 祐子

放送局 3C 末安加代子 3C 那須 文美

風紀局 3E 行里 武英 3C 徳田 早苗  
4E 菅谷 寿人 2A 花田由佳里  
1E 古賀 裕一

講演後、塚本邦重先生よりクラブ活動時の怪我等に対する応急処置法について説明があり、また顧問教官不在時の対応手順について再度確認を行いました。  
学生主事補 村岡 良紀



# 建築設計競技



各年度の3Aの入賞状況

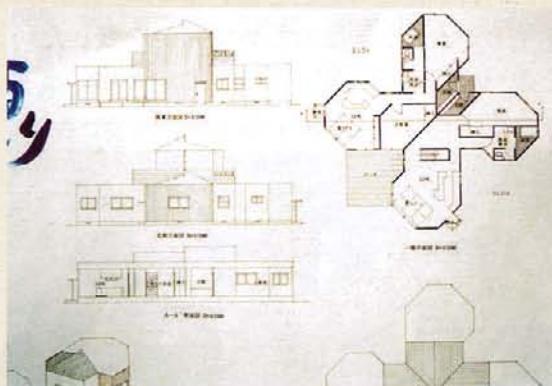
年 度	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13
知事賞	1	1		1	
会長賞					
特別賞	1				1
金 賞				1	
銀 賞		1		1	
銅 賞				3	1
佳 作	2	1	2	3	10
協会賞	1	2	4	5	8
合 計	5	5	6	14	20
団体賞	優秀賞	努力賞	努力賞	優秀賞	努力賞



▲銅賞 3A 高柳七子さんの「Comuni work」

## 過去最多の入賞

(社)福岡県建築士事務所協会主催の建築設計競技で昨年を上回る過去最多の入賞を果たしました。今年の課題は、今までになく具体的なもので、福岡県八女郡矢部村の小学校跡地と特定された敷地に建つ地域活性化のための住宅群(高校生の部)、施設(専門学校生の部)でした。高校生の部には県内から57作品の応募がありました。その中で、3A清田美鈴さんが特別賞、高柳七子さんが銅賞を獲得し、その他、佳作に10人、協会賞に8人が入り、昨年の14人を上回る20人が入選し、学校努力賞の団体賞を受けることができました。専門学校の部には県内から139作品の応募があり、協会賞に4Aの2人が入りました。



▲特別賞 3A 清田美鈴さんの「風の便り」(一部)



▲同上 模型

## 編集後記

卒業をテーマにした曲は数多い。尾崎は唄う「…支配からの卒業…」と。確かに校則や成績によって支配されることではなくなる。卒業の一つの意義かもしれない。しかし、卒業という言葉には物悲しさが同居する。それは、別れがあるからだ。今まであたりまえのようにそばにいた友達が明日から突然いなくなるのだ。一人になる不安に裏打ちされた別れの感傷がそこにある。松山が詩う「こみあげる寂しさに問いかけたのは……」と。問いかければ、皆で泣き笑いした場面がスライドショウの様に胸中を往来する。もうすぐ卒業式。長淵が歌う「…遙か長い道のりを歩きはじめた君に幸せあれ！」

## 有明高専だより 第106号

平成14年2月28日発行

編集：有明高専広報委員会

発行：有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861 (学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>